



2026 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 日創グループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 石田 徹
(コード: 3440 東証スタンダード・福証)
問合せ先 取締役 I R・S R 部長 諸岡 安名
(TEL 092-555-2825)

**資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に関するお知らせ
(アップデート)**

当社は、本日開催の取締役会において、2024 年 10 月 15 日開示の第 4 次中期経営計画『『創る』力で未来に挑む企業グループ』にて公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、現状の分析・評価を行い、内容をアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以上

添付資料: 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」

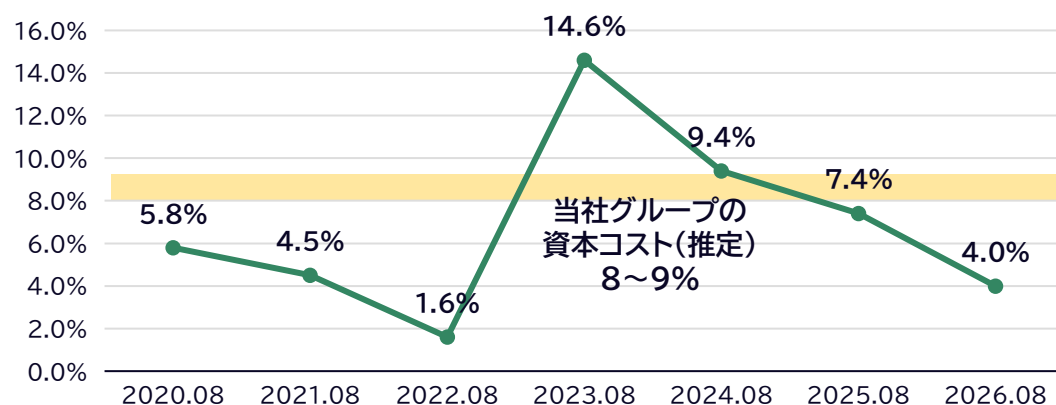
資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

2026年10月15日

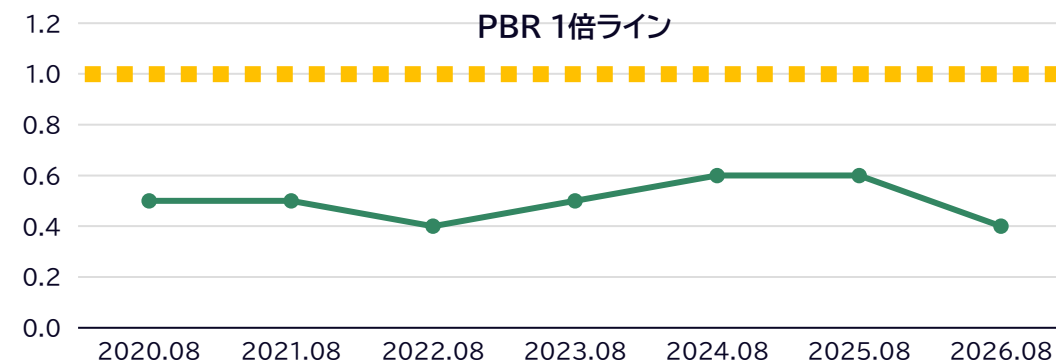
当社グループの資本コストは8～9%と推定。※資本コスト(株主資本コスト) $8.73\% = \text{リスクフリーレート } 2.92\% + \beta \ 0.90 \times \text{マーケットリスクプレミアム } 6.45\%$

- ・ ROE:2022年8月期を境に改善したが、低下傾向にあり資本コストを下回っている。
- ・ PBR:1倍を下回る0.4～0.6倍で推移。
- ・ PER:改善傾向であるものの、当社の成長性に対する評価や期待度は、依然として低い。

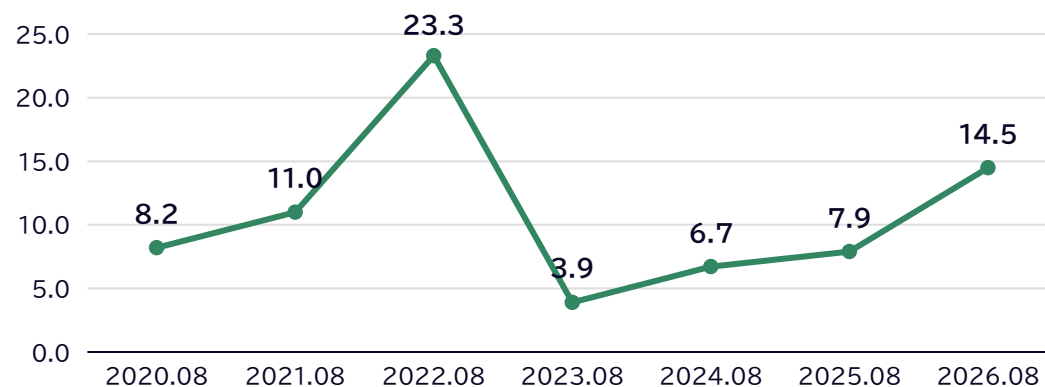
ROE(%)



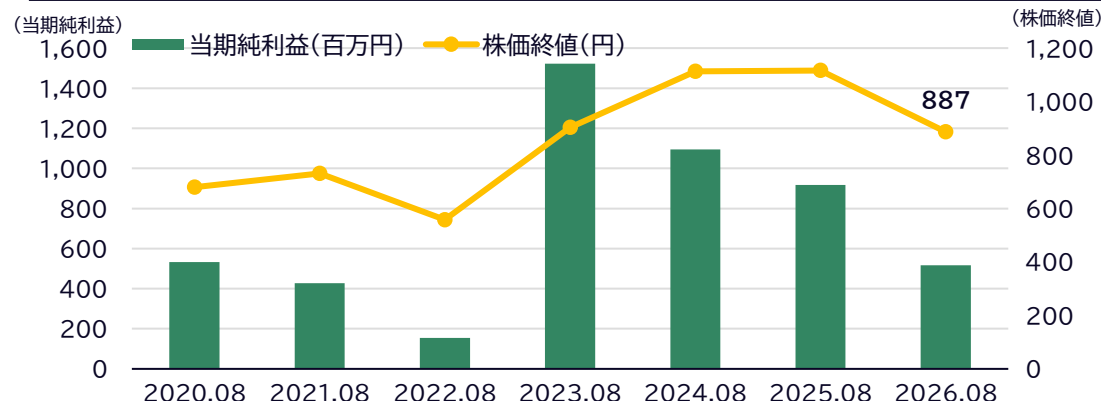
PBR(倍)



PER(倍)



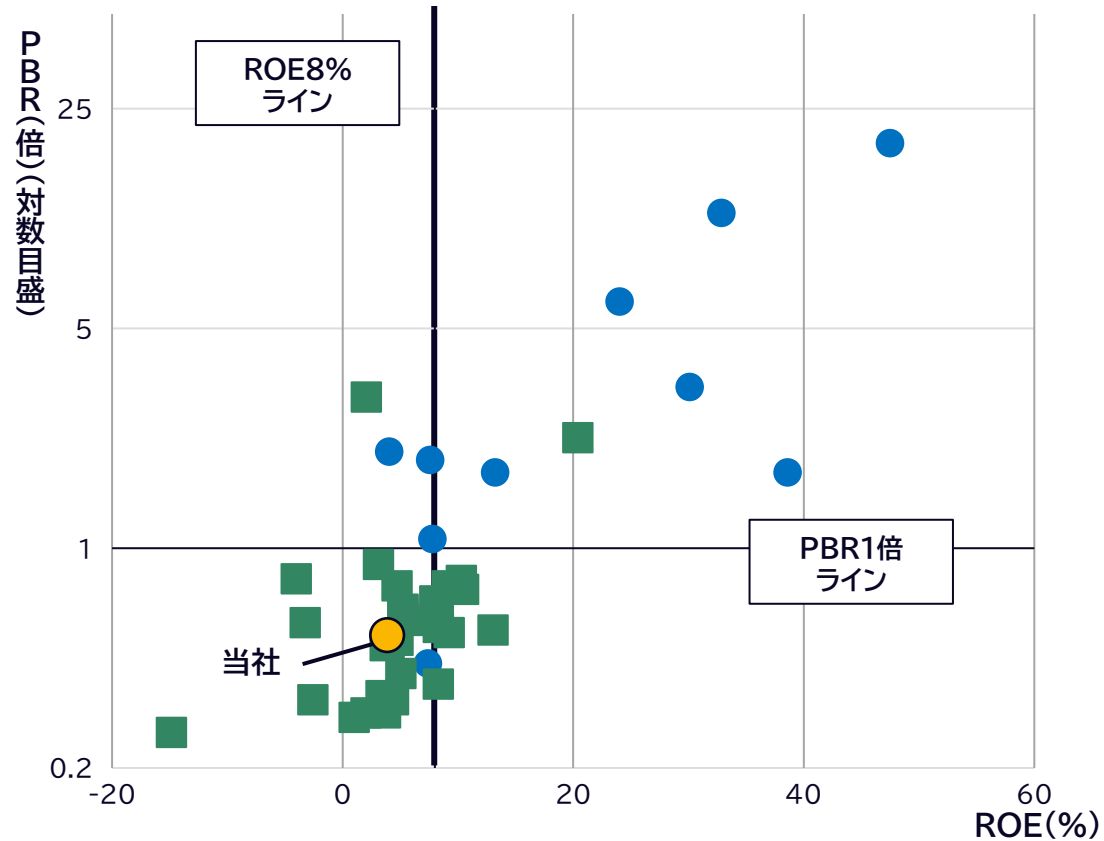
当期純利益(百万円)と株価終値(円)



当社株式：東証33業種分類上「金属製品」

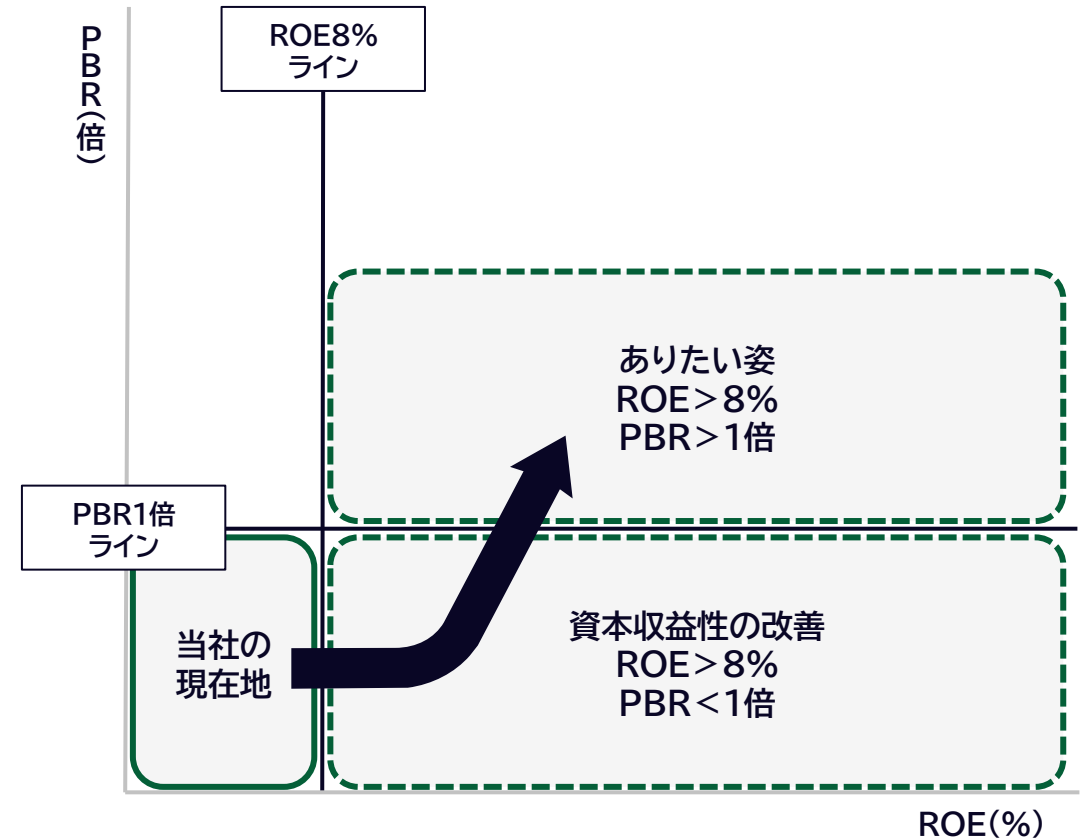
vs ■ 同業種分類(時価総額 約50～200億円)企業 … ROE、PBR水準に近い企業が多い

vs ● M&A型成長企業との比較 … ROE 8%超、PBR 1倍超となっている企業が多い

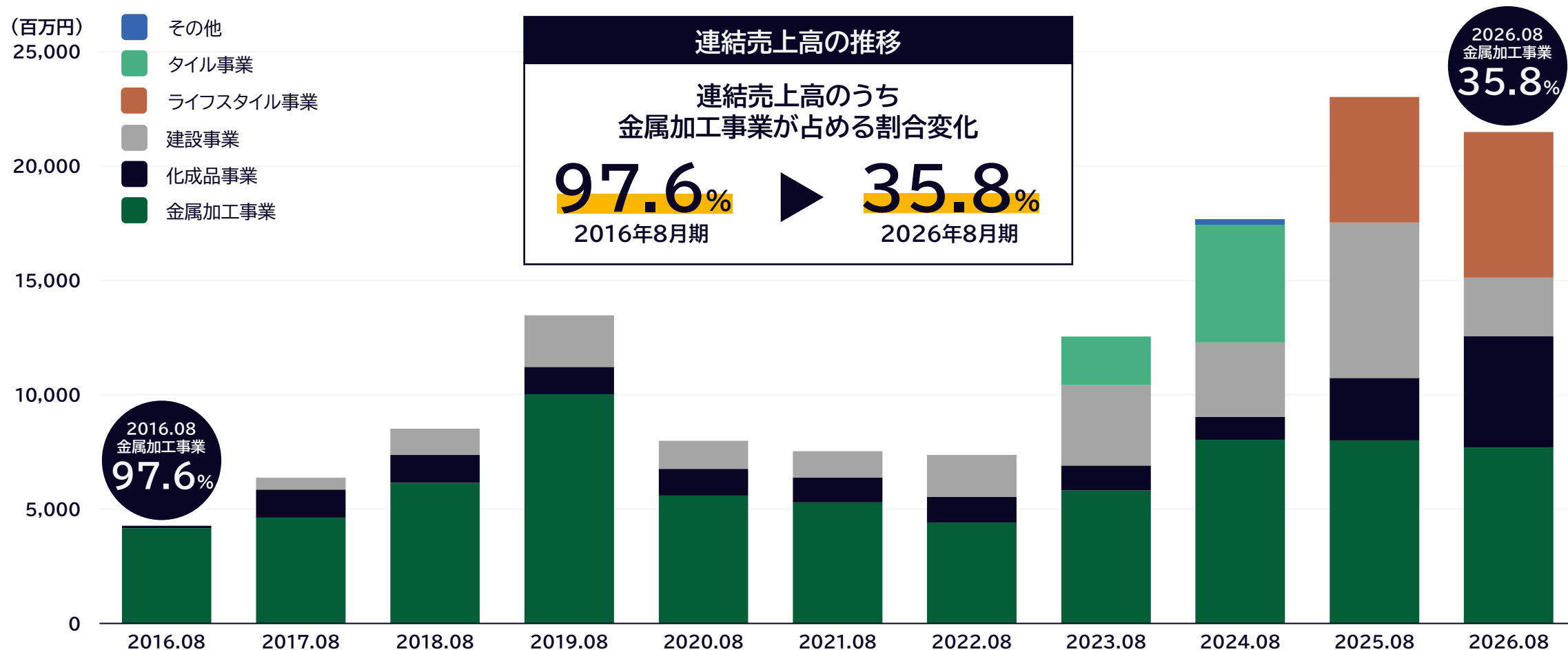


● M&A型成長企業 ■ 「金属製品」企業 (時価総額50～200億円)

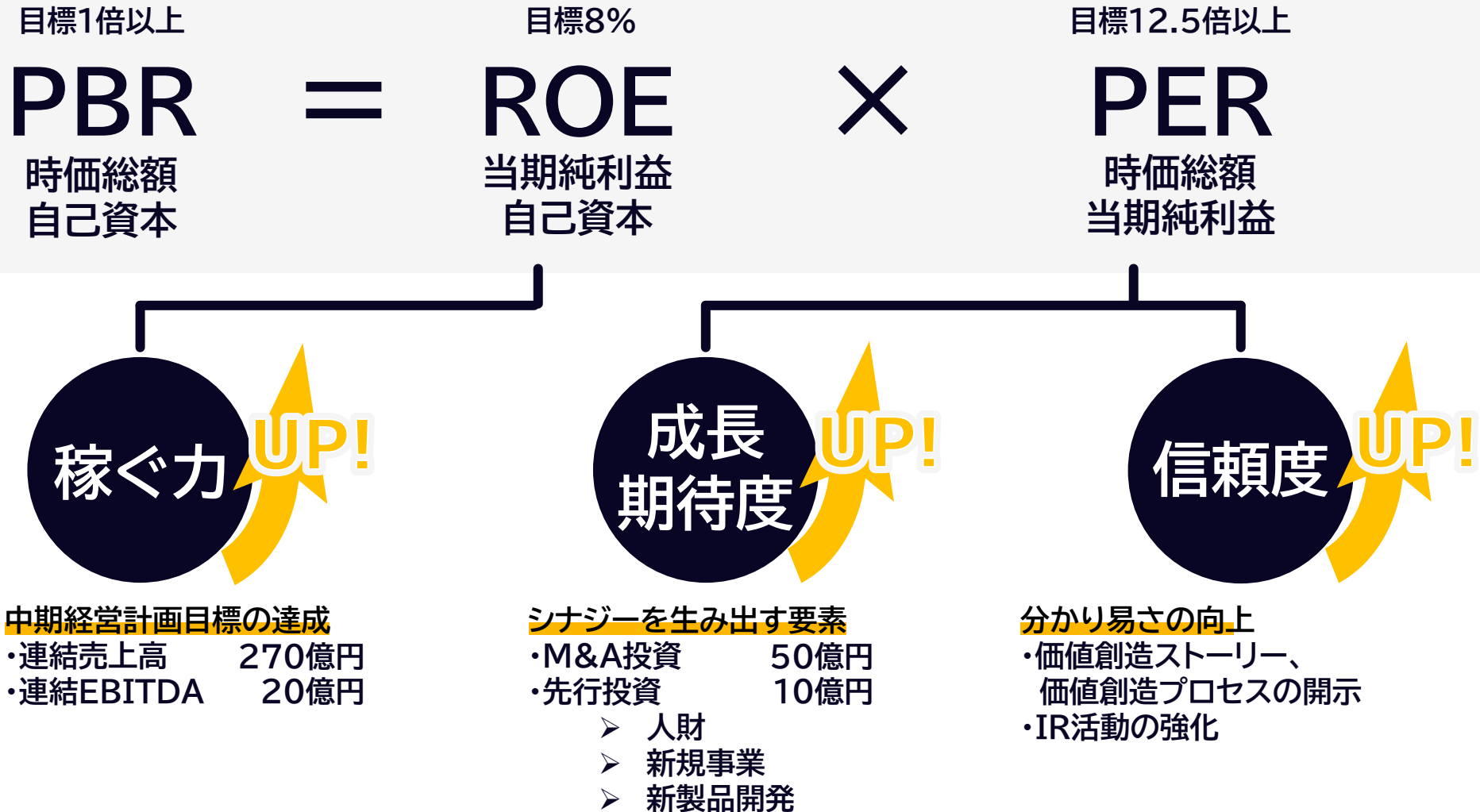
※各社2026年10月13日時点PBR・ROEで算定



当社株式は、東証33業種分類上「金属製品」にカテゴライズされているものの、連続的なM&Aを経て「金属製品」以外のに業種に広がりを見せている。グループ経営開始時の2016年8月期時点で売上高全体の97.6%を占めていた金属加工事業の割合が、2026年8月期時点で35.8%まで低下。



PBR1倍以上を達成するため、稼ぐ力と成長期待度・信頼度をあげていく。



M&Aによる成長	「創る力」による成長	先行投資	海外市場へ展開	ファンドへの取組み
M&Aで企業・技術・人財を獲得し、グループの「創る」力を磨き上げる	新製品・新規事業を創出し、シナジー・販路拡大、原価低減を行う	持続的な成長のため、人財・新規事業・新製品開発への先行投資を継続的に行う	日本で培った「創る力」を海外市場へ展開する ・海外拠点化プロジェクト ・海外調達 ・海外販売 ・海外M&A(生産)	・バリュアップ後の売却による収益機会の獲得と資本効率の向上を目指す ・ファンドの活用により、アプローチできていなかった業種・規模の企業を探索 ・後継者問題を抱える優良中小企業を一時的に引き受け、事業継承支援を行う
M&A×「創る」力 成長の両輪 エリアと事業分野の拡大				

企業・事業・市場・人財を創り、そこで生まれたキャッシュを次の成長へ再投資



価値を創造する「投資・事業創造グループ」を目指す

価値を創造する「投資・事業創造グループ」を目指す



「創る」力を還元する

- ・生み出した付加価値を
ステークホルダーへ還元する
- ・事業で獲得したFCF_{*1}を
再投資に振り向ける
- ・資本コストと株価を意識
した経営の推進

*1:フリーキャッシュフローのこと



「創る」力をつなぐ

- ・各社の力を連携し、無駄なく活かす
- ・顧客基盤の共有
- ・各社のリソースを結集し、
新製品開発、新規事業を実現
- ・設計工程や調達を一部海外へ移転する
海外拠点化プロジェクト



「創る」力を広げる

- ・M&Aへの戦略的投資
- ・設備投資



「創る」力を鍛える

- ・人財への投資
- ・製造原価の削減
- ・PMI_{*2}により事業基盤を鍛える
- ・ハード以外のソフト力を強化
(品質、技術、デザイン、DX)
- ・成長が期待される既存事業強化
(再エネ、パネル、DC_{*3}向け)

*2:M&A後の経営統合プロセスのこと

*3:データセンターの略

2025年8月期よりIR活動を強化。投資家との接点を増やし、継続的な情報開示と内容の拡充を推進。

	2024年8月期	2025年8月期	2026年8月期
IRイベント 登壇	・2024年4月福証IRフェア登壇	・2025年1月福証IRフェア登壇 ・2025年5月湘南投資勉強会登壇 ・2025年8月福岡セミナー登壇	・2025年10月西日本新聞IRイベント登壇 ・2026年1月福証IRフェア登壇 ・2026年4月神戸投資勉強会 ・2026年8月Kabu Berry Lab登壇
決算説明 資料開示	・4Q決算説明資料	・2Q決算説明資料 ・3Q決算説明資料 ・4Q決算説明資料	・1Q決算説明資料 ・2Q決算説明資料 ・3Q決算説明資料 ・4Q決算説明資料
決算説明会 の実施	・1on1取材の実施(機関向け) ・福証での記者会見(2Q、4Q)	・1on1取材の実施(機関向け) ・福証での記者会見(2Q、4Q) ・2Q決算説明動画の公開 ・3Q決算説明会(配信) ・4Q決算説明会(配信)	・1on1取材の実施(機関向け) ・福証での記者会見(2Q、4Q) ・1Q決算説明会(配信) ・2Q決算説明会(配信) ・3Q決算説明会(配信) ・4Q決算オンラインQ&A(配信)
決算説明 動画開示	・公開なし	・2Q動画公開 ・3Q動画公開 ・4Q動画公開	・1Q動画公開 ・2Q動画公開 ・3Q動画公開 ・4Q動画公開



CONTACT

お問い合わせ

日創グループ株式会社
グループ経営戦略本部 IR・SR部

☎ 092-555-2825

🌐 <https://www.nissogroup.com>

✉ ir@nissogroup.com

■ ディスクレーマー

本資料に記載されている計画、予測又は見通しなど、将来に関する事項等は、当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいております。従って、将来の業績等を約束するものではなく、今後様々な要因により変動する可能性があります。